



子の日本選手権は横浜文化体育館で別の日に行われるなど、まだ女性差別は残っていますね？

溝口 はい。でも、それも近く改善されて、男女ともに武道館で同時開催になりますよ。というのは経済的な問題もありますから。柔道は小学生の全国大会を廃止しました。それは小学生や指導者が勝利至上主義に走り、危険な難しい技に挑戦しすぎるとか、勝てる階級で闘うため無理な減量をするといった、子供たちの健康を損ねる要素を改めるためでもありました。同時に経済的や人的な問題も大きかった。つまり少子化の結果、子供たちの柔道選手が十分に集ま

らない地方が出たり、大会を運営する人も費用も集まらなくなったりで、開催不可能という事情も出てきた。それが子供たちの柔道にとって、良い方向に働いたという言い方もできます。

玉木 なるほど。少子化というマイナス要因が、プラスに働いたわけですね。

溝口 これは今後大きな問題として、様々な方面で浮上してきますよ。2030年から40年にはさらに少子化が進み、それに伴い経済問題に直面せざるを得なくなる。

話は少々飛びますが、アフリカのウガンダは男女の平等度を測るジエンダー・ギャップ指数(GGI)が世界第4位で、女性の国会議員の割合も60%以上の世界1位です。それはクウォータ制(女性議員を3割以上とする割当制)を取り入れた結果もありますが、ジェノサイドと言われた部族間紛争や近隣諸国・反政府勢力との戦争で男性の人口が激減。女性の力を活用せざるを得なくなったのです。
玉木 日本のGGIは世界で110位以下。議員数の割合も10%切

って世界平均26%を下回り、これも110位以下の低さです。

溝口 日本もクォータ制を取り入れないといけないと思いますが、極度の少子化と高齢化の結果、必然的に女性のパワーの活用が求められ、スポーツ界でも男女別々のイベントなど経済的にできなくなり、男女共催で行わざるをえなくなり、女性の割合の多い組織の競技が、時代を先取りしているスポーツとして生き残っていくと思いますよ。

玉木 そういう視点で考えると、毎年正月に大騒ぎしている箱根駅伝は最も差別的な古色蒼然たる差別的イベントと言えますね。

溝口 はい。箱根駅伝は全国大会の顔をしています。関東の大学だけの地方イベントです。

玉木 青山学院大学の原監督などは、全国大会にしなければ、と言っていますか……。

溝口 それより先にやるべきことは男女共催です。柔道では男女混合団体戦がオリンピックで採用され、世界的には他の競技でも男女混合種目が増えているなかで、駅

伝ほど男女混合のやりやすい競技はないのに、それに手を付けようとしなのは不思議です。とはいえ、箱根駅伝の人気は高いかもしれませんが、その結果マラソンや陸上長距離界の競技力の向上にどれほどつながったのかを考えると、首を傾げますよね。

玉木 日本国内の関東の大学だけのお祭りをマスメディアが騒ぎすぎですね。

溝口 日本の陸上競技界が、世界に通用するアスリートを育てるブランドデザインを描けていないのですね。加えてテレビを見ている視聴者のスポーツに対するリテラシーの低さも感じます。男子だけが走っている大会を違和感がないのですから。

玉木 メディアがスポーツ・ジャーナリズムとして批判しにことも問題です。

溝口 以前は柔道にも読売新聞社と学柔連(全日本学生柔道連盟)主催の正力松太郎杯という国際的な学生大会が正月に日本武道館で行われていました(83~98年)。が、学柔連と全柔連の対立があった